

ワンパーセント
イオン1%クラブ

vol.9
2025 Spring



自分たちが苗の植え付け、受粉作業を行ったいちごを収穫するメンバーたち(イオン チアーズクラブ)

イオンワンパーセントクラブ活動レポート

イオン チアーズクラブは小中学生を対象とし、環境や社会貢献に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国約450店舗を拠点にさまざまな体験学習を行っています。



農園の方に教わった甘みの特徴である、全体が赤く染まった軸の太いりんごを採ります

活動
レポート

2

みなかみ町の温泉街で
地方創生への取り組みを
見学！りんご狩りも体験



葉が落ちないように、慎重にレタスを収穫

活動
レポート

1

「三木里脇チアーズ農園」
来春の開園に向けた活動を開始！



廃墟再生マルシェの会場を見学中

2024年12月1日(日)、みなかみ町役場のご協力のもと、みなかみ町(群馬県利根郡)にて、イオンチアーズクラブ高崎と太田のメンバー36名が、ユネスコエコパークに登録されている温泉街の再生について学び、その後りんご狩りを体験しました。

まず始めに、メンバーたちは地方創生プロジェクトの現場見学を行いました。見学先は、裏路地にある廃墟となった寮で、メンバーたちは少し怖がりながらも、廃墟が現在「廃墟再生マルシェ」として人々が集まる交流の場になっていることを知り、驚いた様子でした。メンバーたちからは「人口が少なくなっていく中で、どのように廃墟を活用していくか勉強になった」との声が聞かれました。



土に住む生き物についてのクイズで畑づくりのことを学びます

2024年11月9日(土)、イオン兵庫三木里脇農場(兵庫県三木市)にて、イオンチアーズクラブ三木と三木青山のメンバー7名が、来春の「三木里脇チアーズ農園」の開園に向けた活動を開始しました。

まず始めに、農場のスタッフから、三木里脇農場で栽培されている農作物や、農業に深刻な影響を与える獣害について詳しく教えていただきました。

その後、活動の第一歩として、メンバーたちは来春の開園に向けて、畑の管理作業である堆肥撒きを体験しました。この堆肥は、近隣のイオングループ店舗

大きなりんごが
たくさん取れたよ！



見学のあとは、みなかみ町の産業を学ぶため、りんご狩りを体験しました。メンバーたちは農園の方から「一つひとつのりんごが大切に育てられていることを学び、収穫についてレクチャーを受けました。大きなりんごを丁寧に収穫しました。真っ赤なりんごをたくさん収穫できたメンバーたちは、とてもうれしそうなお様子でした。



大規模な廃墟と化した「旧ひがきホテル」を見学



試食したレタスの甘みに驚くメンバーたち

から排出された食品廃棄物を利用して作られた、環境に優しいリサイクル堆肥です。メンバーたちは、堆肥の説明を受けたあと、協力して畑に堆肥を撒きました。メンバーたちからは、「チアーズ農園の畑で、来年野菜がたくさん収穫できるように、一生懸命堆肥を撒きました」との声が聞かれました。

堆肥撒きのあとは、旬を迎えているオーガニックレタスの試食と、サニーレタスの収穫体験を行い、取れたレタスの新鮮さや甘さに、メンバーたちも驚いていました。メンバーたちは来春の開園を心待ちにしています。



活動
レポート
4

衣料廃棄問題とリサイクルの重要性を学ぶ サステナブルワークショップを開催!



デコレーションに使う材料に悩み中



古着を切って
デコレーションの材料に



自分だけのオリジナルノートを作りました!

株式会社OPAのご協力のもと、2024年12月1日(日)、「三宮オーパ2(兵庫県神戸市)にて、イオンチアーズクラブ「神戸南」「umie」「垂水」のメンバー9名が「サステナブルワークショップ」に参加しました。

まず始めに、衣料廃棄問題について、「日本国内でいらなくなった服の量はどれくらいなのか」などをクイズ形式で学習しました。

その後、活動で着用し、古くなったチアーズTシャツがリサイクルされる過程

を学びました。リサイクル工場でTシャツを綿に戻し、その綿を紙やフェルトに加工してノートやネームホルダーに生まれ変わった様子を動画で視聴しました。

最後のワークショップでは、Tシャツをリサイクルして作られたノートに自宅から持ち寄った古着をデコレーションすることで、アップサイクルの体験をしました。メンバーたちは「不要になった服も誰かの役に立つことができるということを知り、リサイクルすることの大切さを感じました。」と話してくれました。



活動
レポート
3

「もしものときの防災教育」 救命処置やAEDの操作を学ぶ

真剣な表情で胸骨の圧迫の仕方を学ぶ



煙による視界の悪さを体感

避難設備に関するクイズに挑戦



的を狙って放水する消火活動体験

イオンデイライト株式会社のご協力のもと、「防災体験プログラム」もしものときの防災教育」を実施しました。新潟会場では22名、高知会場では15名のメンバーが参加し、救命処置や防災に関する知識を深めました。

救命・応急手当体験では、参加者は訓練用の人形を使用し、倒れている人を発見した際に行う「二次救命処置」について学びました。胸骨圧迫は一定のペースで強く圧迫する必要がありますため、メンバーたちは「思った以上に力がある」「ずっと続けるのは大変だ」という話をしていました。

AEDの操作体験では、自動音声ガイドを聞きながら、メンバーたちでも簡単に操作を行うことができました。メンバーたちは、救急車が到着するまでに迅速に救命処置を行うことが重要であると学びました。

煙体験ハウスでは、煙が充満したテナトに入り、火災発生時の煙の恐ろしさを体験しました。テナトに入ると視界が真っ白になり、メンバーたちはその視界の悪さに驚いていました。

水消火器体験では、訓練用の消火器を使って数メートル先の的を狙って放水する練習を行いました。手順を教わったメンバーたちは、楽しみながらも「もしものときに備えて真剣に練習し、的にうまく当てられるようになりました。」

活動について
 【活動日】2024年11月17日(日)
 【開催地】イオン新潟青山店
 【参加クラブ】イオンチアーズクラブ 新潟青山
 【活動日】2024年12月8日(日)
 【開催地】イオンモール高知
 【参加クラブ】イオンチアーズクラブ 「高知」「高知旭町」「新居浜」



【研究・専門部門 内閣総理大臣賞】
鹿児島県立曾於高等学校 科学部



イオンエコ 内閣総理大臣

2024年12月14日(土)に開催しましたイオン エコワ
ングランプリ最終審査会で内閣総理大臣賞を受賞した
2校の活動を紹介します。

ワングランプリ 賞受賞校 Report

イオン エコワングランプリとは?

高校生が日ごろ、学校で取り組んでいる
環境保全や社会貢献のための活動を発表
し、表現力や発信力を向上させることを目
的に2012年より開催しています。

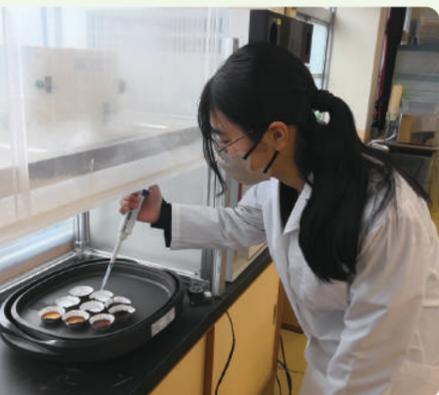


最終審査会の様子は
こちらをご覧ください。



【普及・啓発部門 内閣総理大臣賞】
岡山県立岡山南高等学校 商業クラブ

焼酎粕と乳酸を原料とした新しい水溶性・生分解性プラスチックの開発



焼酎粕の配合率を変えながら比較実験を行います

仮説を立て実験に取り組み
ユニークな特性をもつ素材が誕生
乳酸に焼酎粕の上澄みをそれぞれ
適量加え、230℃で2時間ほど加
熱すると強度が高い「焼酎粕—ポリ
乳酸プラスチック」ができました。

活動内容
地元から出る焼酎粕を活用!
新しい水溶性・生分解性
プラスチックを作りたい
「世界的な環境課題であるプラスチック
ごみと、地元鹿児島県の産業廃棄物であ
る焼酎粕の問題を同時に解決できない
か」という課題意識から活動が始まり
ました。鹿児島県産の焼酎を造る際、
酒造会社1社だけで年間約8,00
0トンの焼酎粕が発生し、処理費用
は約4,400万円にもなります。そこ
で、プラスチックごみと焼酎粕の両方の
問題を解決するため、焼酎粕を利用し
た環境に優しい新しい水溶性・生分解
性プラスチックの研究を開始しました。

次に、乳酸が硬化する理由について、
焼酎粕に含まれるグルコースやタンパ
ク質が熱によって脱水縮合し、結合を
強化するのではないかと仮説を立て、
代わりにグリシンを使用した実験で、
結合力が上昇することを確認し、仮
説の正しさを考察しました。
さらに、「焼酎粕—ポリ乳酸プラス
チック」をミジンコと共に水に入れて放
置すると、ミジンコの増加が確認され、
分解により焼酎粕由来の栄養成分が水
中に放出されたことが示唆されました。
このような特性を持つポリ乳酸プラス
チックの事例は調査した限りでは見当
たらず、世界初の可能性もあります。

成果

実験を重ねて焼酎粕を利用した
生分解性プラスチックを製造

今回製造されたプラスチックは、漁
具の材料や海洋建設現場での従来の
プラスチックの代替として利用できる
可能性ががあります。また、水田の稲
に被害をもたらすスクミリンゴガイの卵
に塗布することで、ふ化を阻害し、雨
で分解された後は水田のミジンコの養
分となる利用法も考えられています。

研究を重ね、素材の高強度化や
製造のコストダウンにも取り組む

曾於高校科学部では、「焼酎粕—
ポリ乳酸プラスチック」の強度を自作



焼酎粕の配合率を変えた「焼酎粕—ポリ乳酸プラス
チック」の強度を自作の強度測定器で測ります

審査員より

柔軟な発想を持ちながら、
クラブの皆さんが主体的に
取り組む姿勢に好感を持ち
ました。今後の普及活動に
も期待しています。

成果
眠っていた畑の復活を実現!
販売益により持続可能な活動に
収益面では、モリンガキャンディーの
販売を通じて、1年間で98万円の売
上を達成しました。この収益で活動
経費の一部を賄い、持続可能なプロジェ
クトの基盤を確立しました。さらに、
モリンガ商品の販路拡大により、企業
や地域イベントからの注目も集めるこ
とに成功しました。
トレンドを意識した商品開発など
多彩なモリンガ商品を展開したい
モリンガキャンディーの開発は、東京の
企業と連携しながら試作と試食を重
ね、コストパフォーマンスの高い商品が完
成しました。地域の意見も反映し、個
性的な製品となり、好評を得ています。
今後は、ラインナップ拡充と収益化を
目指します。韓国スイーツとの融合など、
トレンドを意識した開発、持続可能な
モデルの構築や、県外大学のOB・OG
との連携も考えています。

審査員より

地産地消を実現する、素晴らしい取り組み。モリンガは
利用できる部分が限られているため、他の植物を用い
た試みにも期待しています。

モリンガ環境プロジェクトを持続可能な取組に!



モリンガの葉の収穫も学生たちが手作業で行います

活動内容
地域の耕作放棄地の問題を
モリンガで解決したい!
特産品の開発やイベント参加を通じ
て岡山県の活性化を目指す活動を続
けるなか、地域の耕作放棄地の問題に
直面しました。また、地球温暖化対
策にも取り組みたいと考え、高い栄養
価とCO₂吸収力を持つスーパーフード「モ
リンガ」に注目しました。
モリンガを耕作放棄地で栽培するこ
とで、カーボンニュートラルの実現に貢
献でき、栽培したモリンガを食品に加
工することで、県民の健康増進にも
寄与します。モリンガを活用した耕作
放棄地の有効活用と地球温暖化対策
を同時に目指す活動が始まりました。



作ったキャンディーをバレーボールチーム「岡山シーガルズ」のホーム
ゲームで販売

畑の再生活動の収益化のために 「モリンガキャンディー」を開発

約3,000坪の耕作放棄地をモリ
ンガ畑として再生しました。収穫し
たモリンガは粉末に加工し、県内の食
品メーカーやベーカリーに提供。自分
たちでもモリンガ粉末を使った「モリ
ンガキャンディー」を開発しました。
昔ながらの手づくり製法で、抹茶の
ような味わいとピリリとした辛味が好
評を博し、地域イベントやコンビニで
の販売が実現しました。
畑の管理は、障がい者支援施設と
連携することで効率化を図っていま
す。これにより就労支援の場も提供
でき、環境保全だけでなく社会的意
義の大きい活動となっています。

私は子どもの頃から、将来は教育分野に進み、良い教育者になることが夢でした。コミュニティ全体にプラスの影響を与えるには、教育がとても重要だと気づきました。そして、良い教育者になりたいという夢が、努力するための原動力となっています。良い教育者になれば、未来の生徒たちの人生を明るい未来に創り変えることができ、良い影響をもたらすことができると信じています。

イオン スカラシップは、私の学業をサポートするだけでなく、プロフェッショナルとして成長するために不可欠なリソース、指導、経験を提供してくれます。

今後さらに努力を重ね、社会に積極的に貢献したいという想いが一層強くなっています。私はこの支援を、夢を実現するためだけでなく、より良い社会づくりに貢献するために活用することを約束します。



AEON SCHOLARSHIP
AWARD CEREMONY

AEON イオン1%クラブ

カンボジアの奨学生による
将来の夢についてのスピーチ

【開催日程】

11月24日(日)	中国(北京)
11月25日(月)	ベトナム(ホーチミン)
11月27日(水)	ベトナム(ハノイ)
12月3日(火)	インドネシア(ジャカルタ)
12月5日(木)	カンボジア(プノンペン)
12月6日(金)	中国(武漢)
12月7日(土)	中国(長沙)
12月12日(木)	タイ(バンコク)
12月21日(土)	中国(青島)
12月22日(日)	中国(広州)
1月3日(金)	ミャンマー(ヤンゴン)



インドネシアの会場での記念写真



中国の奨学生による琵琶の演奏パフォーマンス



交流会では来賓として参加した現地法人社長より自分の夢についてのアドバイスをいただきました



イオンワンパーセントクラブ 森理事長より中国の奨学生に認定証を授与(広州会場)

AEON Scholarship イオン スカラシップ 認定証授与式

日本と母国の架け橋となる

イオン スカラシップとは?

将来日本と母国の架け橋となり活躍してほしいとの願いのもと、日本の大学に留学しているアジアの大学生と、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーの大学で学ぶ現地の大学生を2006年より支援しており、奨学生同士の交流会や宿泊研修セミナー、ボランティア活動などの機会を提供しています。



◀ 2024年6月に開催された日本での認定証授与の様子はこちらをご覧ください。

**イオン スカラシップ生
467名に認定証を授与**

2024年11月から2025年1月にかけて、イオン スカラシップ 認定証授与式をアジア各国で開催し、467名の大学生に奨学金を給付しました。本年度より湖南大学(中国)も加わり、6カ国23大学で学ぶ学生に給付しました。

認定証授与式の後、奨学生代表より将来の夢や目標についてのスピーチが披露されました。「エンジニアとして日本と母国を結ぶ技術開発を行いたい」「通訳者として文化の架け橋になりたい」といった、各自の強い決意を述べました。

その後、交流会が行われ、奨学生たちはイオンワンパーセントクラブの森理事長や来賓の方々と積極的に交流をしました。奨学生たちは、交流会を通して視野を広げるとともに、将来について考える機会を得ました。



入賞したマレーシアの学生たち



子どもたちへの環境教育についてスピーチするインドネシアの学生



審査員と参加者を前に堂々とスピーチする中国の学生（北京会場）



ファストファッションが環境に与える影響について訴えかけるタイの学生

【二次選考開催日程】

11月16日(土)	中国(広州)
11月18日(月)	マレーシア(クアラ Lumpur)
11月23日(土)	中国(北京)
11月26日(火)	ベトナム(ハノイ)
12月5日(木)	カンボジア(プノンペン)
12月11日(水)	インドネシア(ジャカルタ)
12月20日(金)	タイ(バンコク)



入賞した中国の学生たちとイオンワンパーセントクラブ 森理事長の記念写真（北京会場）

日本語スピーチコンテストとは？

日本語を学ぶアジアの大学生がテーマに沿って自らの考えを日本語で発信するコンテストです。このコンテストは、他の大学生のスピーチに触れることで刺激を受け、切磋琢磨する機会を提供しています。



食品ロスをなくす取り組みを発表するベトナムの学生

アジア6カ国で開催！

2024年度 イオンワンパーセントクラブ 日本語スピーチ コンテスト

テーマ 地球環境のために、今私たちにできること

地球環境のために、今私たちにできることを題材に各地で予選大会を実施

24年度はアジア6カ国で、「地球環境のために、今私たちにできること」をテーマに日本語スピーチコンテストを開催しました。学生たちは気候変動や環境問題に対する課題意識を持ち、それぞれの思いや実際に行っている環境保全活動の取り組みを日本語で発表しました。持ち時間3分間でスピーチを行い、その後に質疑応答が行われました。

277名の応募者の中から各国の予選大会を勝ち抜いた計50名が2025年2月に来日し、最終審査に臨みます。

財団概要

笑顔あふれる未来をつくる。

イオンワンパーセントクラブは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に、グループ各社の参画のもと、1990年に設立されました。

以来30年以上にわたり、お客さまにイオングループをご利用いただき、生まれた利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な活動領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

ご寄付のお願い

次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。なお、当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当財団への寄付金については、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

ご寄付の方法

クレジットカード
決済

WAON POINT
利用

銀行振込

右記のコードを読み取り、
寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



編集後記

第9号では、春の開園に向けた三木里脇チアーズ農園での活動の様子や、みなかみ町でのりんご狩りの様子をお届けしました。高い所にあるりんごに手が届かない子を、高学年の子どもたちが一生懸命サポートしている姿を見てとても温かい気持ちになりました。活動の様子は、HPやInstagramでも紹介しておりますのでぜひご覧ください。今後とも「イオン1%クラブ」をよろしくお願いいたします。

(佐伯)

公益財団法人

ワンパーセント

イオン1%クラブ

[発行元] 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1

Tel 043-212-6023 Mail 1p@aeon.info

右記のコードを読み取ると
当財団の活動詳細をご覧ください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

